

よいことのために
手を取りあおうRotary
Club of Uozu2025 - 26年度
会長 青山 圭一
幹事 島田 修

謹賀新年



新年を祝い乾杯！

食事の前に新年を祝い、辻さんの音頭で元気よく乾杯。飲んだのはノンアル梅酒ではなくジンジャエール。

会長あいさつ 青山 圭一会長

新年あけましておめでとうございます。

トランプ大統領がとんでもないことを言っていたいへんなことになっている(注・アメリカがベネズエラを運営する)。我々に大事なことは4つのテストに従って行動することだ。

出席報告

3452回 13名 72.22%

3450回 メークアップ 中田さん

3450回 77.77% → 83.33%

Happy Birthday



寺腰直明さん

55歳になりました。55と言えば松井選手(元巨人・ヤンキース)の背番号と同じ。同じように活躍できるように頑張っていきます。



青山圭一さん

71歳になり、昨年父が103歳で他界しました。こうしたことからもしっかりしなければならぬと思っています。

ニコボックス報告

青山圭一さん あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

川岸芳雄さん 今ほど、魚津警察署長より多年にわたり警察活動に対し感謝状をいただけてきました。

会長年頭卓話

青山 圭一会長



本年もよろしくお願ひいたします。私は医師だが、昨年例会で手術についてお話しした際、皆様非常に熱心に耳を傾けてくれた。改めて、医療の専門情報を共有することも私の大切な役割であると感じた。

さて、医療の現場から言うと、まずはアルコールの問題がある。酒への欲求の強さは千差万別。社会的活動をしている皆さんには関係ない話だが、自制が難しい方の場合、断酒会のような場での支援が必要になることもある。また、感染症については、インフルエンザの報告が続いている。今シーズンはA型から始まったが、最近高校の行事などを通じてB型も増えてきた。「一度かかれば安心」というわけではないので、引き続き注意を。

私自身、会長職を務めて半年がたった。仕事の制約がある中、多くの皆様に支えていただき、この場を借りて深く感謝申し上げます。今後、2月には「淡交会」の新年行事や、中学生の「14歳の挑戦」の推進委員会などの公務が予定されている。私がすべてに対応することが難しい場合もあるので、関心のある方であれば、ぜひ代理出席などの協力をお願いしたい。

今後の当クラブにおける最大の課題は「合併問題」。皆様の意向も合併の方向でまとまりつつあると理解している。私は、合併を単なる統合に留めず、何か新しい活動を始める好機にしたいと考えている。一つは海外交流の再開。特に台湾は、先年の震災時にも多大な支援を寄せてくれるなど、日本に対して非常に強い親愛の情を持っている。こうした地区のRCとの交流を模索できないか。また、国内においても、小松市など近隣のクラブと、例えば「5年間」といった期限付きで相互交流を行うなど、お互いの刺激になるような新しい試みを提案したいと考えている。

合併という節目を迎え、皆様からもぜひ建設的なアイデアをいただきたい。活気あるクラブ運営のため、今後ともよろしくお願いいたします。



よいことのために
手を取りあおう



Rotary
Club of Uozu



2025 - 26年度
会長 青山 圭一
幹事 島田 修

会長あいさつ 青山 圭一会長



魚津西ロータリークラブとの合併について、第1回合併協議会を行った。後ほど正式な議事録ができるが、懸念していた先方の60周年記念事業のタイミングだが、これを合併時期の問題にしないということだ。

また合併した場合、名称は規約上どちらかの名前を引き継ぐことになっているが、今のところ西RCの委員の意見では「魚津ロータリークラブ」が残ることになっている。来月、西RCとの合同夜間例会があるが、そこで以前合併したクラブの方を招いて、その時の話を聞くことにしている。その後、総会を開催して正式に協議、決定したい。

出席報告

3453回 13名 72.22%

3451回 メークアップ 中田さん

3451回 72.22%→77.77%

Happy Birthday

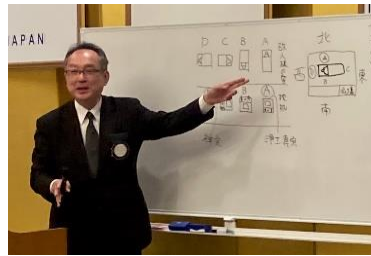


昭和27年生の74歳、後期高齢者予備軍になりました。今年の連休には家族と娘家族と一緒に北海道へ行って金婚式のお祝いをします。



会員卓話

大江忠男さん



遺体安置における「北枕」の解釈が変化している。現代の寺院事情では本山の意向が強く、方位の北ではなく、仏壇のある位置を

西と定義する考え方が主流だ。これを「西方浄土」に見立てるため、仏壇がどの向きにあっても、それを基準に相対的な北が決まる。かつては実方位で調整していたが、現在は仏壇や本堂の位置を優先して枕の位置を決める形に移行している。

勤行の際に使う机の位置は、宗派の死生観を色濃く反映する。富山県内で6割以上を占める浄土真宗は、机を本尊寄りに配置する。対して禅宗等の他宗派は、遺体の枕元に置く。この差は「誰に対してお参りするか」という目的の違いにある。浄土真宗は「往生即成仏」の教えに基づき、亡くなった瞬間に仏様になると考える。そのため、勤行は故人ではなく阿弥陀如来(本尊)に向けて行われる。一方で他宗派は、故人が閻魔の裁きを受ける前段階で彷徨っていると捉える。遺体に悪霊が入り込まぬよう、故人に向き合ってお勤めをするため、机の配置が異なる。祭壇の設えを見れば、その家の教えが判別できる。

葬儀費用には、祭壇、花、霊柩車といった「固定費」と、香典返し、飲食、引き出物など的人数で変動する「流動費」がある。相続税の控除対象となるのは、主に固定費である。供え物や返礼品は親族や参列者からの金員で賄われる性質のものであり、喪主側の実質負担がゼロと見なされるため、原則として経費には認められない。請求書の項目を整理する際は、この区分を正しく認識しておく必要がある。

また、作法についても、浄土宗のように焼香を三度捧げる所もあれば、真宗のように一度で済ませる所もある。基本は施主側の宗派に準じるが、本来は各々が自宗派の作法で参るのが本旨である。お寺の講和でそれに触れてもえらえるとありがたい。

時代の変化とともに、受付での「PayPay」による香典決済が普及しつつある。東京では既に実例があり、芳名録のリスト化が容易になる利点がある。ただ携帯アプリが個人名となっていると会社として香典が分かりにくい。名義の紐付けといった課題はあるものの、避けて通れない流れと言える。